

「ハッ場ダム建設事業の検証に係る検討報告書（素案）」に対する関係住民の意見聴取

平成 23 年 11 月 8 日（火）14:20～15:40

利根川上流河川事務所 2 階大会議室

発言者：意見発表者 6

加須市北川辺地域に住んでおります、●●と申します。合併前は北川辺町長として 10 年と半年、治水・利水、色んな形で国と協力しながら色んな事業に取り組んだことがありました。北川辺地域は、ご承知の通り利根川、渡良瀬川の合流点にございまして、いつも洪水の危険に晒されていると申しますか、そういう低地でございます。昭和 22 年のカスリーン台風におきましても、大利根町の新川通りと同じように渡良瀬川が切れまして、大洪水に見舞われたと、私が 4 歳の時にございましたけれども、うっすらと覚えているそのような土地柄でございます。

今回、ハッ場ダムの建設事業の検証に係わる検討報告書の素案ということで、いろいろ読ませて頂いたところでございますけれども、はじめに政治の目的と申しますか使命につきましても、当たり前のことですけれども国民の生命・財産を守り、安全・安心な生活を確保する、そういうことが最大の目的であり使命であるとそうように考えております。首都圏を含む関東地方の住民の安全・安心な生活を確保するために、利根川水系の水を治めるいわゆる治水対策、あるいは水を活用する利水対策、これは国にとっても大きな課題でありますけれども、その解決が国の責務であるとそうように考えています。ハッ場ダムにつきましても、皆さんご承知でございますけれども、吾妻川の中流に予定されていると、そういうことで現在進行中でございますけれども、多目的ダムそういうことで、洪水調節、都市用水の補給、流水の正常な機能の維持、また発電を目的として、大変こう長い間進められてきているところでございます。ハッ場ダム事業については、調査開始が半世紀以上経って 59 年が経過していると、調査から既にそれだけの時間がたっていると聞いております。この多目的ダムでございますが、この報告書に書いてありますとおり、洪水調整容量につきましても 6,500 万 m³、総貯水容量 1 億 750 万 m³ そのように書かれているところでございます、私達と申しますか、私にとって身近な渡良瀬遊水地との比較をちょっとさせていただきましても、渡良瀬遊水地の総貯水容量というのが 1 億 8,000 万 m³ から 2 億 m³ と言われております。6,500 万 m³ の治水容量については、渡良瀬遊水地全体の 3,300ha ありますけれども、その治水容量のおおよそ 3 分の 1 と言えるかと思えます。また、貯水容量だけを比べますとおおよそ 2 分の 1 と、そういう事になるかと思えます。先ほどもお話がありましたけれども、利根川上流のダムの中では、ハッ場ダムがもし完成すれば、最大の治水容量を持つダムと、そのようになるわけでございます。ハッ場ダムが完成して、6,500 万 m³ の治水容量が増大するという事は、利根川中下流の私達にとって、利根川沿川の私達の治水にとって大変大きな効果が期待されるとそうように思えます。非常にこう大きな沿川住民にとっては、あるいは首都圏住民にとって治水力のアップにつながる、そういうことが言えると思えます。また、利水の方でございますけれども、ハッ場ダムが完成すれば都市用水いわゆる開発水量としては 22.209m³/s、日量に換算しますと約 192 万 m³ になります。これは渡良瀬貯水池いわゆる谷中湖ってありますけれども、ここと

ちょっと比較してみますと、あそこは面積が 4.5km² なんですから、総貯水容量につきましては 2,640 万 m³、そのように聞いております。開発水量については 1 日あたり 21.6 万 m³ と、そのような多目的ダムとして整備されているわけでございます。総貯水容量については、約八ッ場ダムはこの 4 倍、開発水量については 8.8 倍になります。この新規利水あるいは都市用水の補給の点でも、八ッ場ダムの完成が大変大きな効果が出てくるわけございまして、工業用水あるいは水道用水の安定的な供給に大きな役割を果たす、そのようになるわけでございます。埼玉県の水道水は安定水利権が 70% だそうございまして、いわゆる不安定な形の暫定水利権が取水量の 29% あるそうございまして。このダムが八ッ場ダムが完成すれば、暫定水利権が解消して安定水利権となって、より安定的な取水が可能になると。埼玉県民としてもぜひこの利水の関係におきましても、八ッ場ダムの建設を強く望むところでございます。先ほど若干触れましたけど、八ッ場ダム事業については、調査に着手してから 59 年が経過している半世紀以上経っている、その間地域住民あるいは関係者のみなさんの御協力ご理解のもとで、下流域の 1 都 5 県をはじめ、地方公共団体の協力を頂いて、現在まで進んできている所でございます。長い年月が経っているにも関わらず、なかなかまだ未だに完成の見通し、完成が見通せない、大変地元の人達、地権者の人達、関係者の人達の苦難といいますか苦悩といいますか、心痛が目に見えるような気がするところでございます。また、予算の執行状況等につきましてもよく言われますけれども、八ッ場ダム建設事業の概算で 4,600 億円かかるといわれておりますけれども、そのうちの既に 77% については執行済みと、実施済みとそういうことでございます。報告書にもありますけれども、用地買収に、家屋移転、付け替え鉄道整備、付け替え国道県道の整備、そういうものがほとんど、90% 以上ができあがっていると。残るはダムの本体工事だけと、極端に大まかにいえばそういうことが言えるわけでございます。そのダムの本体工事その他で残事業として、新たなこの対応を含めてっていうことで、地滑り対策とかそういうことを含めて 1,300 億といわれているところでございまして、完成までは 87 ヶ月、7 年 3 ヶ月そのように聞いております。他のいろんな事業と比べられておりますけれども、八ッ場ダムだけが、これだけもう進んできている、予算でも 8 割近くまでできていて、その他については 9 割以上出来上がっている。そういうことを考えますと、その他いろんな方策を組み合わせて、幅広い治水対策というのが立案されておりますけど、なかなかその八ッ場ダムと比較するには、大きな差があるとそのように思うところでございます。対案として、5 つあげられて、八ッ場ダムが 1 つ目その他に 4 つぐらい案が出されておりますけれども、どれを見ても、安全度、コスト、実現性等その他いろいろありますけれども、評価軸の評価として、ダントツに八ッ場ダムが有利である。とそのようになっている訳でございます。この報告書にもありますとおり、一定の安全度を確保する河川整備計画相当の目的流量を八斗島において、河道への配分流量を 17,000m³/s ですが、それを確保するとすれば、コスト面において、もっとも有利なのはダム案である。いわゆる八ッ場ダムの建設がいちばん総合的に有利。また、時間的な観点からの実現性につきましても、先ほど 87 ヶ月という話もあるますけれども 7 年と 3 ヶ月になりますけれども、10 年後にはもっとも効果が発現されていると、そういうふうに想定されるのがダム案であると、そのようなことございまして、ダム案以外については中止に伴う費用等も必要になる場合が出てくると、そうしますと、全体的に治水、いわゆる洪水調節、あるいは利水の面においても、そのいろんな

評価軸を基にして評価した結果が、ダントツに洪水対策にしても、新規利水の観点からも八ツ場ダムが有利性が高いか、有利な案がダム案であると、そのような結論になるわけでございます。そのようにいろいろなことをこの報告書を読ませて頂きましたけれども、そういう中で私たちが考えなくては行けないかと思うんですけども、非常に幅広く詳細な検証について、洪水対策、洪水調節の目的においても、新規利水の目的においても、また流水の正常な機能の維持においても、総合評価の結果として、ダム案が八ツ場ダムの建設が最も有利であると、そういう結論であるわけでございます。これらを踏まえて総合的な評価も当然、最も有利なのがダムの建設、ダム案であるわけでございます。この検証結果については、当然の既決であると思えますし、既に八ツ場ダム建設の事業の約8割以上が進捗して、事実上ダム本体工事を残すのみと、残事業につきましても1300億程度、工期につきましても87ヶ月、そういうことを考えますと、利根川流域をはじめ首都圏の治水・利水両面から最小の費用で最も順速かつ確実に最大の効果を上げることが出来るのはダムの建設であり、国民感情からあるいは国民的感情から当然、一刻も早くダム本体の工事に着手して頂き、1日でも速く完成させるべきものと考えているところでございます。今後、地球温暖化あるいは気候の変動で心配されます大型台風等による大洪水やあるいは逆に渇水、猛暑による渇水の発生等も考えられるもわけでございますけれども、そういうものに対しても対応できる八ツ場ダムが我々にとって必要不可欠の施設であるとそうように考えております。以上です。

以上